

「質の高い双方向オンライン授業」への挑戦

ハッピーキャリアプログラム主宰 大内章子

充実した学習のためのハッピーキャリアプログラムがこだわっている「対面と同等、および、オンラインならでは、それ以上の質の高い双方向オンライン授業」への取り組みをご紹介します。下記の取り組みを基に学術研究論文「オンライン遠隔授業における教授法の開発と授業効果の研究－リカレント教育での実践例より－」『関西学院大学高等教育研究』第12号, pp.1-12も執筆いたしました(2022年3月刊行)。私たちはスタッフ一丸となって熱く取り組んでいます。

1. プログラムの特徴とコロナ禍における二つの課題

HP(総合トップページ)の[紹介動画](#)でもご紹介しているように、本プログラムの特徴は「最新の経営知識と実務スキル」「質の高い関係性」「深く広く考える力」を得られることです。

①ビジネススクールの教員と実務家による授業



経営知識と実務スキル

②様々な業界経験の受講者同士ネットワーキング



質の高い関係性

③ディスカッション・グループワーク中心の授業



深く広く考える力

しかし、2020年のコロナ禍でキャンパスが閉鎖され対面授業が許されなくなった中、「どのように授業の質を保証するのか?」という課題に直面しました。

コロナ禍では、二つの課題がありました。一つ目の課題「プログラムを開講するのか?」に対して、私どもは「開講しない」という選択肢をとらず、「大人の学び=リカレント教育を止めない」を合言葉に、前年度に開講した「大学連携オンラインコース」で培ったオンライン授業のノウハウを応用し実現することを考え、6月開講のリーダーコース、10月開講のキャリアアップ・起業コース共に迷わず開講を決定しました。

二つ目の課題は、単にオンライン授業をすることではなく、「対面と同等か、それ以上の質の授業をする」ことです。そのために、より使いやすいシステムの構築とオンラインにあっ

た授業構成について、講師陣との研究を踏まえ、先の①「最新の経営知識と実務スキル」②「質の高い関係性」③「深く広く考える力」の3つの質保証をするための授業のあり方を検討しました。

2. 「対面と同等か、それ以上の質の高い双方向オンライン授業」への挑戦

①「経営知識と実務スキル」については、講師会での研究によって、担当講師が専門分野をオンライン授業でより効果的に伝えられる工夫をしました。②「質の高い関係性」と③「深く広く考える力」については、②受講者同士のネットワーキングをどう築くか、③ディスカッション・グループワークを、どうリアルにできるか、の質保証に試行錯誤しました。

まず、②質の高い関係性については、2020年度の授業が始まった頃、授業を熱心に受け、ディスカッションして仲間ができていだろうと思っていた受講生がディスカッションだけの付き合いに終わり、実は寂しい思いをしていたことがわかりました。そこで、ネットワークが作れるような様々な受講促進、フォローアップの仕組みを導入しました。修了生の協力を得て、ハッピーキャリアプログラムの3コース合同セミナーを開催したり、各コースの談話会やセミナーを開催したりしたことはその一例です。

③ディスカッション・グループワークはZoomのブレイクアウトセッション機能を積極的に使い、単なるディスカッションではなく、様々なツールを使って対面同様の効果をもたらせるように工夫しました。グループワークでも意見を出し合える環境を整え、グループでの発表も積極的にしていただきました。また、少ない回数でしたが、教室での対面授業も行いました。その際は、事情で教室参加ができない受講生や東北や関東の受講生がオンラインで参加できるように、ハイブリッド授業にしました。こちらは、前年の「大学連携オンラインコース」が応用でき、役立ちました。

3. 受講者によるオンライン授業への評価

こうした取り組みの結果、2020年度受講者から次のような感想が得られています。

「オンラインでなければ受講できなかった」

「地域を限定せずに学習できることはオンラインのメリット」

「関東や東北の方とはオンラインだからこそ出会えました」

「本当に、とても細やかな心遣いを感じております。私が大学生時代に通学して授業を受けていたときより、むしろ、大学との距離感が近いとすら感じております。」

「先生方とも、同期のみなさんとも一度もお会いしたことないのに、こんなに絆が深まるとは！というのがうれしい驚きでした。」

実際にどうなのかは、「マーケティング」、「経営戦略」、「アクションプランニング」、「人的

資源とキャリア開発」担当の各講師がオンライン授業の様子を語っている HP「[授業風景](#)」や、ほとんど対面授業が許されない中で完全オンライン授業を受講してきた13～14期生が授業で得たものを語っている「[修了生の声](#)」をぜひご覧ください。

4. 2022年度に向けての挑戦

2020～21年度の開講で、授業によってはオンライン授業で対面と同等以上の授業効果が得られる授業があることがわかりました。例えば、「ビジネスコミュニケーション」の授業では、顔の表情が見える方が指導しやすいため、マスク着用を余儀なくされる対面授業より、オンライン授業の方が授業の効果があると考えています。また、子育てや介護で多忙な人、会社勤務でオンラインなら参加できる人のためには、オンライン授業の方が受講しやすい、ということがあります。

そこで、2022年度は、対面ならではの良さを活かした対面授業と完全オンライン授業に分けて、授業スケジュールを組みました。対面授業を行う場合でも、リアルタイムでのオンライン受講ができる体制を整えています(ハイフレックス授業)。正直なところ、対面とオンラインの同時開講のハイブリッド授業は、充実した学習環境を作るためには難易度が高いものです。しかし、コロナ禍以前より蓄積したハイフレックス授業のノウハウを活かして、2022年度も「高まる学びの質」「広がる学びの幅」「選べる学びの形」の3つの特徴を持ったリアルタイムの双方向性の高い授業を実施してまいります。

コロナ禍により、職場でもリモートワークが行われ、DX(デジタルトランスフォーメーション)が進められている動きは止まらないと思われれます。100%対面授業が実現するまで待たなくても、双方向性の高いオンライン授業は「学びたい」今のあなたの気持ちに応えることができます。

ぜひ一緒に学びましょう！

以上